

林家正雀

二日連続口演



歯切れのいい人情味あふれる語り口に新緑の観客の心をとらえる正雀師匠の二年ぶりの二日連続口演に注目。

各回 3500円(小:中学生2000円)
2回通し 6000円(小:中学生3500円)

各回定員30名・要申込

2022 7月 23 [土] 18:30

〈演目〉
城木屋
井戸の茶碗
団子坂綺談

24 [日] 14:00

〈演目〉
蛸坊主
毛せん芝居
立ち切り

砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅
主催◆砂丘館

噺の手引き

林家正雀

「城木屋」

評判娘、東海道五十三次、伊勢の壺屋の煙草入れの三題を使った、三題噺です。中で壺屋の煙草入れは、お伊勢参りの帰りの土産品として流行した品です。三題噺は、作者が分かっている物が多いのですが、この噺は作者不明です。番頭丈八のお白州での、云い立てが聞き処です。

「井戸の茶碗」

講談の「細川の茶碗屋敷」を噺に移した物で、明治頃から高座に掛けられていたようです。それを昭和の名人、志ん生師匠が面白くし、さらに志ん朝師匠が、磨いてより人気の有る噺になりました。それが為、古今亭の噺とされていまして私は、当代の馬生師匠から教えて頂きました。

「団子坂綺談」

もともと上方の噺で、「腕食い」と呼ばれている噺で、東に移って来て、「すねかじり」の題で演られる様になります。ですが、サゲが割れて仕舞いますので、落語研究家の関山和夫先生が、「団子坂綺談」の演目の名にして下さいました。落ちの有る、怪談噺です。

「蛸坊主」

上方の噺を、師匠彦六が東に移しました。舞台を不忍の池にして、江戸前の噺になっています。昔に見た、東映の時代劇に、こんな場面があったの思い出します。多分、この噺を取ったのだらうと思われま。三味線が入って芝居がかりになって、聞かせ処ですが、演題の「蛸坊主」は、下げを聞いて分かる事になっています。

「毛せん芝居」

大名噺の一つです。大名がお能を見る事は実際に有ったと思われまますが、それを芝居にしたのが、面白いと思います。その芝居は、「葛紅葉宇都谷峠」の内、文弥殺しの処で、この場は人気有り、他の噺さんま芝居にも使われています。三味が入り、七語調の台詞は、演っていて楽しいですが、下げが粹でして、恐らく下げから先に出来た噺だらうと思われま。

「立ち切り」

上方では、「立ち切れ線香」と云っております。上方で出来た噺ですが、名人文楽師匠もお演りになったと聞きますので、東でも明治には演じられていたと思います。噺では珍しい純愛物です。そして肝心なのが三味線です。上方では、地唄の「雪」ですが、こちらは、長唄の「黒髪」が入ります。色街を舞台にして、純な若い男女を描いた人情噺の名作です。

林家 正雀

はやしやしうじやく
落語家。一九五一年二月二十五日山梨県生まれ。七四年に八代目林家正蔵（のち彦心）入門し、前座名繁蔵。七八年正雀で二ツ目。八三年同名のまま真打。

2022 7月

23 [土] 18:30

城木屋
井戸の茶碗
団子坂綺談

24 [日] 14:00

蛸坊主
毛せん芝居
立ち切り

各回 3500円小・中学生2000円
2回通し 6000円小・中学生3500円

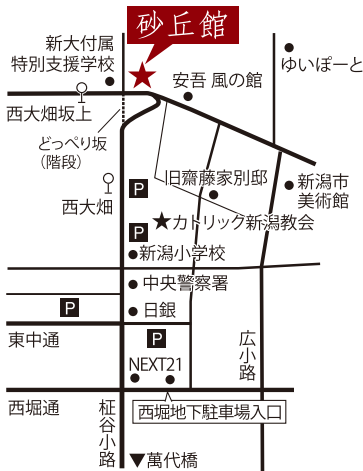
本演日は全て事前申込が必要です。
参加希望日、お名前、連絡先、参加人数を、電話又はFAX、Eメールで砂丘館までお知らせの上、お申し込みください。

◆電話 FAX 025(222)2676
◆Eメール yoyaku@bz04.plala.or.jp

お申込受付開始日：6月8日(水)

*新型コロナウイルス感染予防対策を講じて開催いたします。
*ご参加にあたってはマスクの着用をお願いいたします。
*また当日検温を実施させていただきます。

会場◆砂丘館 一階和室〈定員各回30名〉



砂丘館

会場◆砂丘館 一階和室〈定員各回30名〉

新潟市中央区西大畑町5218-1 tel.025-222-2676
https://www.sakyukan.jp

新潟駅万代口より浜浦町線C2系統 又は
観光循環バス「西大畑坂上」下車徒歩1分

※砂丘館には駐車場がありません。また、周辺の道路は
駐車禁止です。公共交通機関をご利用ください。

※新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は駐車券提示にて
1時間分の無料券を差し上げます。

私たちは砂丘館の自主事業を応援しています。

あられ株式会社

NSGグループ

ISHIKAWA

新潟ビルサービス

丸屋本店

藤田金属

WIND

郷土の文化に親しむ会